



綾瀬川の生き物

綾瀬川の生き物

～ 桑袋ビオトープ公園～

多様な生き物が集まるスポットに

さまざまな生き物が生息するには、水辺や林などのいろいろな自然環境が必要です。また、異なる環境に生息する生き物が行き来できるよう、それらの場所がつながっていることも大切です。

足立区が造成した桑袋ビオトープ公園は、桑袋浄化施設(※1)に併設しています。この公園は、綾瀬川周辺に少なくなってしまった水辺や林の環境を取り戻す目的で整備され、現在では下記のような希少な生き物も確認できるようになりました。

※1 パネル『綾瀬川をきれいにするためにPart1』参照



上空から見た桑袋ビオトープ公園

緑地を増やしたことで、生き物が移動しやすくなりました。

綾瀬川に生息する希少な生き物

東京都区部で少なくなってしまった生き物も桑袋ビオトープ公園周辺で確認されています。いろいろな生き物を探して、観察してみましょう！

● ハグロトンボ (絶滅危惧II類)



5～10月頃に、水生植物が繁茂する水辺で見られる。

● ニゴイ (準絶滅危惧)



砂の多い川底付近を利用して小さな虫や藻類を食べる。

● チョウゲンボウ (絶滅危惧II類)



時おり街中でも見られ、小鳥、昆虫などを食べる。

※ 重要種のランクは、『レッドデータブック東京』の基準を用いました。

綾瀬川の生き物

綾瀬川周辺や桑袋ビオトープ公園の水辺や緑地では、
いろいろな生き物に出会うことができます。みなさんも
探してみましょう！

コゲラ

スズメほどの大きさの小型のキツツキ。オスは後頭部に赤い羽がある。

アキアカネ

淡い橙色をしたアカトンボ。夏は高所、秋には平地や丘陵地で見られる。

ゴイサギ

夜行性で飛びながら「クワックワツ」と鳴くことから「夜がらす」と呼ばれる。

カワセミ

水に飛び込んで魚を捕り、くわえた魚を枝にたたきつけ、気絶させて食べる。

コガタスズメバチ

木の枝や家屋に球形の巣を作る。毒針を使って、敵を攻撃をする。

オナガ

尾が長い。カラスの仲間。群れを作り、「ギューイギューイ」と鳴く。

ハラビロカマキリ

樹木やつる植物の大きな葉の上などで獲物を待ち伏せて捕まえる。

トノサマバッタ

荒地や草原に生息する。成虫はススキなどのイネ科の植物を食べる。

ムラサキツバメ

オスの翅の表面はきれいな紫色。5月下旬頃から11月頃まで見られる。

コイ

フナと似ているが体がやや細長く、背びれが幅広い。口に4本のヒゲがある。

スズキ

海岸近くや河川に生息する。成長につれて呼び名が変わる出世魚。

カルガモ

一年を通して見ることができる。オスもメスも同じ色をしている。

カイツブリ

日本のカイツブリ科で最も、潜水してエサを探すこともある。

クロベンケイガニ

河口部の干潟に生息している。木や石の下、アシ原の根元などで見られる。

マハゼ

汽水域に生息するハゼ。食用や釣りの対象魚として人気がある。

テナガエビ

淡水域や汽水域に生息する大型のエビ。名前の通り第二歩脚が長く発達。

ヌマチチブ

川底や岩の隙間に生息するハゼの仲間。雑食で主に附着藻類を食べる。

ヤマトシジミ

シジミと単に言えばヤマトシジミをさす。塩分を含む汽水域の砂泥に生息。



オオカマキリ



チョウセンカマキリ



ハラビロカマキリ



コカマキリ



キリギリス



クビキリギス



エンマコオロギ



ミツカドコオロギ



ケラ



ツチイナゴ



マダラバッタ



トノサマバッタ



ショウリョウバッタ

カマキリ目

複眼は大きく、三角形の頭は自由に動かすことができる。
鎌のような前脚で昆虫などを捕えて食べる。

バッタ目

後脚は発達し、飛び跳ねることに適している。丈夫な大あごで
食べ物をかみ砕くことができる。



クマゼミ



アブラゼミ



ニイニイゼミ



オオスズメバチ



コガタスズメバチ



クロスズメバチ



ミンミンゼミ



ツクツクボウシ



チャバネアオカメムシ



マルカメムシ



キマダラカメムシ



ルリクチブトカメムシ



イサキモンツギツノカメムシ



キアシナガバチ



グタモンアシナガバチ



コオイムシ



セイヨウミツバチ

カメムシ目

陸上で暮らす種から水中で暮らす種までさまざま。細長い針状の口をもち、昆虫や植物の茎などに刺して汁を吸う。

ハチ目

メスの産卵管が変化した針は、身を守ることや獲物を捕らえることに用いる。スズメバチやミツバチは社会生活を行う。



コクロコガネ



セマダラコガネ



カナブン



カブトムシ



シロテンハナムグリ



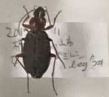
コアオハナムグリ



アオドウガネ



コクワガタ



セアカヒラタゴミムシ



ナミテントウ



ナナホシテントウ



ダンダラテントウ



ヒメカメノコテントウ



ニジュヤホシテントウ



キイロテントウ



キマワリ



ガムシ



ゴマダラカミキリ



クワカミキリ



イノソツカメノコハムシ



ウリハムシ



クロウリハムシ



ヤナギリリハムシ



ドウガネサルハムシ



ヨツボシツツハムシ



ヨモギハムシ



ブタクサハムシ



アオバネサルハムシ



ハンノキハムシ



ウリハムシモドキ



ハイイロチョッキリ



コフキソウムシ

コウチュウ目

きやばね
鞘翅という硬い前翅で、柔らかな腹部を守っている。
日本では約1万種が知られ、様々な環境に適応している。



クロアゲハ



ナガサキアゲハ



ジャコウアゲハ



ナミアゲハ



キアゲハ



アオスジアゲハ



キタキチョウ



モンキチョウ



モンシロチョウ



ツマキチョウ



イチモンジセセリ

チョウ目①

翅や体の表面をりん粉が覆い、翅などの模様を作っている。
幼虫はイモムシか毛の長いケムシで、多くは植物を食べる。



ウラギンシジミ



ムラサキシジミ



ムラサキツバメ



ベニシジミ



ウラナミシジミ



ヤマトシジミ



ルリシジミ



ツバメシジミ



ツマグロヒョウモン



コミスジ



キタテハ



ルリタテハ



ヒメアカタテハ



コムラサキ



ゴマダラチョウ



サトキマダラヒカゲ



モモスズメ



コスズメ



ベニスズメ

チョウ目②

翅や体の表面をりん粉が覆い、翅などの模様を作っている。幼虫はイモムシが毛の長いケムシで、多くは植物を食べる。



アオモンイトトンボ



アシアイトトンボ



コオニヤンマ



ギンヤンマ



クロスジギンヤンマ



オオヤマトンボ



オオアオイトトンボ



シオカラトンボ



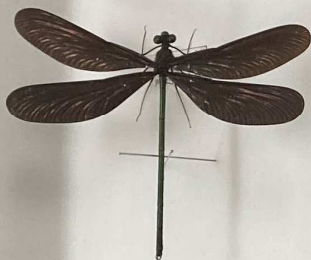
オオシオカラトンボ



ショウジョウトンボ



コシアキトンボ



ハグロトンボ



ウスバキトンボ



アキアカネ



ノシメトンボ



チョウトンボ

トンボ目

翅を動かすための筋肉が発達し、飛行能力が優れている。
幼虫はやごとよばれ、水中で暮らす。





ハシボソガラス

留鳥として九州以北に分布し、ひらけた草原に多く見られ、大都市や高山帯では少ない。
くちばしが細く「ガア、ガア」と濁った声で鳴く。



ヒヨドリ

留鳥または標鳥として全国に分布し、都市部では一年中見られる。「ピーヨピーヨ」と高い大きな声で鳴き、波形に飛ぶ。



アカハラ

主に本州中部以北の山地や高い山の林で繁殖する。冬季は暖地や平地に移動し、ほぼ単独で見られる。市街地の公園林などに生息する。



アカハラ

主に本州中部以北の山地や高い山の林で繁殖する。冬季は暖地や平地に移動し、ほぼ単独で見られる。市街地の公園林などに生息する。



シロハラ

冬鳥として全国的に渡来する。平地林から山地林、都市部の公園、緑地などに単独で生息する。アカハラと比べて腹部が白っぽいことが和名の由来。



シメ

冬鳥として全国的に渡来する。冬季は市街地の公園でも見られる。「チツ」または「キチツ」などと鈍い声で鳴く。



アオジ

留鳥または標鳥として北海道かた本州中部の山地林に生息する。春・夏は山林で繁殖し、秋・冬には市街地の庭や公園でも見られる。



メジロ

留鳥または標鳥として全国に生息する。(北海道では夏鳥)目の周りの白いアイリングが和名の由来。体の色からウグイスと間違えられることも。



ウグイス

留鳥または標鳥として全国に分布する。春に「ホーホケキョ」とさえずるようになる。地鳴きは舌打ちのように「チャッチャツ」と鳴く。